

## 令和4年度 第1回「千葉市農政審議会」議事録

1 日 時 令和4年9月6日（火）  
午後2時00分から午後4時15分

2 場 所 議会棟3階 第3委員会室

### 3 出席者

委員：12名

石橋 毅 会長 高梨子 文恵 副会長  
宇留間 又衛門 委員 阿部 智 委員 椛澤 洋平 委員  
伊藤 康平 委員 秋山 陽 委員 長谷部 衡平 委員  
小島 英男 委員 実川 文子 委員 斎藤 昌雄 委員  
石出 博子 委員

事務局：9名

経済農政局長（橋本）  
農政部長（農業委員会事務局長併任）（表谷）  
農政センター所長（農業経営支援課長事務取扱）（圓城寺）  
農政課長（渡部）  
農地活用推進課長（農業委員会事務局次長併任）（中田）  
農業生産振興課長（森田）  
農政課長補佐（柴田）  
農政課企画班主査（佐藤） 企画班（山内）

### 4 議 題

- (1) 会長及び副会長の選任について
- (2) 議事録署名人の選任について
- (3) 千葉市農業基本計画の諮問について
- (4) 前農業基本計画の総括と今後の方針について
- (5) 次期農業基本計画について

### 5 議事概要

- (1) 石橋毅委員が会長に、高梨子文恵委員が副会長に選任された。
- (2) 宇留間又衛門委員と長谷部衡平委員が議事録署名人に選任された。

- (3) 千葉市農業基本計画の諮問について、事務局を代表して橋本経済農政局長が諮問書及び諮問の趣旨を説明し、受理された。
- (4) 事務局より前農業基本計画の総括と今後の方針について説明し、委員からの意見を踏まえて計画を策定することで了承を得た。
- (5) 次期農業基本計画（素案）について、委員からの意見を踏まえて計画を策定することで了承を得た。

## 6 会議経過

会議は、農政課課長補佐の司会進行により行われ、委員12名の出席を得ていることから、千葉市農政審議会設置条例第6条第1項の規定に基づき、会議が成立している旨が告げられた。

続いて、本審議会は不開示情報に該当する議題が含まれていないため、会議は公開され、議事録は全て公表される旨を告げ、経済農政局長が挨拶を行った。続いて、司会より出席委員及び課長以上の事務局職員を紹介した。

次に、会長及び副会長が未選任のため、会長が決まるまでの間、表谷農政部長が進行役を務めることについて事務局より提案があり、委員の承認を得た。

### 議題1 会長及び副会長の選任について

会長選任については、石出委員より石橋委員を会長に推薦があり、全員これを了承したため、石橋委員が会長に選任された。

副会長の選任については、宇留間委員より高梨子委員を会長にと推薦があり、全員これを了承したため、高梨子委員が副会長に選任された。

### 議題2 議事録署名人の選任について

議事録署名人について、石橋会長より宇留間委員と長谷部委員が指名され、選任された。

### 議題3 千葉市農業基本計画の諮問について

千葉市農業基本計画の策定について、事務局を代表して橋本経済農政局長が諮問書及び諮問の趣旨説明し、農政審議会に対して諮問された。

#### 議題4 前農業基本計画の総括と今後の方針について

事務局（渡部課長）が前農業基本計画の総括と今後の方針について説明を行った。

続いて、以下の質疑応答があった。

##### 【宇留間委員】

前農業基本計画と今後の方針ということですが、やはり私たちは農業従事者を増やして、収入を増やしていくための支援をしないとイケない。販売規模が3,000万円以上の方が4、5人いるようですが、一方で300万円以下の方がほとんどですから、農業従事者を増やすといっても、これでは中々農業を職業にするということにはならないのではないかと思います。

スマート農業と言っても、高齢者は畑の中でPC操作なんて難しいのではないかと。もっと現実を見て取り組まないといけません。いくら色々と技術を投入しても、中々上手くはいかないのではないかと。千葉市には林業の方もいるが、非常に経営は厳しいのではないかと。材木が売れるのは50年先、100年先ですから。農業の方もやはりサラリーマンの方と同じような収入は得られるようにならないと、農業は衰退する一方であると私は思います。

昨今のウクライナの問題もありますが、日本の食料はほとんどが輸入ですから、食糧が来ないと。その辺も私たちは考えていかなければならないですね。小麦一つとっても、朝ご飯でご飯を一杯多く食べるだけで米が足らなくなるので、それを補っているのがパンや蕎麦などです。それを考えて、若い時から農業は大事だよということを伝えていかなないと。そのために農業者の生活を安定させていかなないと。ここに書いてあるようなことを実現させるのは中々厳しいのではないかと思います。

##### 【表谷部長】

ご意見ありがとうございます。宇留間委員の仰るとおりだと思います。スマート農業については、単純に技術を投入するだけでは、高齢者の方々は中々難しいということには認識しております。一方で、売上を上げてサラリーマン並みの所得にまで上げていかなければいけないということと、若い従事者が少なくなっているということで、農業の持続性を求めていくためには、千葉市の農業に合ったものを取り入れていくことを我々が検討する必要があると考えております。

農業の自給自足に関することですけれども、千葉市には米作り等、自給自足に寄与するところもございますので、このあとの議題5でご説明いたしますが、そういった観点も含めて次期農業基本計画の策定に取り組んでいきたいと思っております。

#### 【椀澤委員】

資料に関して、私からも2点ほど質問をさせていただきます。

まず1つ目ですが、7ページ目の達成状況を見ますと、8ページの総括には農家の所得を上げることに不十分であったという反省がありますが、この統計データを見ると、統計データなしとあります。データ上はわからないというように見受けられるのですが、それだと中々成果指標がわからないわけでありまして、それに対して農家の方々の所得を上げるための具体的なアプローチ、統計データが必要になるのではないかと思います。分からないものはこのまま分からないままにしてしまうのか、その辺の取組について教えて頂きたいのが1点です。

もう1点は10ページ目です。データを見ると300万円以下の農業者の方々がかなり減少していると。こういう農家の方々にどういったアプローチをして、どういう声を聞いてきたのか。もう少し現場感、現場の農家さんの声を入れた支援策、そういうのが必要ではないでしょうか。家族農業で小規模だけれども持続できるような、機械の支援、人的・財政支援等が必要であると思うのですが、今までどういう声を聞いてきたのでしょうか。

#### 【渡部課長】

まず7ページの統計につきましては、確かに所得の統計はないのですが、売上についての統計はまだ残っております。こちらについては、10ページの販売規模別の農業経営体数の表をご覧ください。この表の販売規模の額から経費を引いたものが所得になりますが、今後、我々は販売額を一つの指標として施策を検討していきたいと考えております。

2点目ですが、令和元年度に小規模農家別のアンケートを実施しております。母数が150程度なのですが、次の議題でアンケート結果をご説明させて頂き、次期基本計画にはその結果を反映させながら作成していきたいと思っております。

### 【表谷部長】

前計画の評価における年間農業所得の統計データがない点について、補足してご説明いたします。年間農業所得の数値は、県が出している農業経営基盤強化促進に関する基本方針、いわゆる認定農業者に関する方針に基づき作成した、千葉市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想において、効率的かつ安定的な農業経営体の育成目標として年間農業所得 570 万円以上と定められており、そちらをベースに作成しております。そこから、前計画の総括を行う際にどういった評価をするかということですが、元々生産農業所得を販売農家数で割った金額で評価することを考えていたのですが、農林業センサスの中から販売農家数という統計指標が無くなってしまい、計算ができなくなってしまったという状況です。先ほど農政課長からもありましたが、販売規模別というのは今も統計データがございますので、そういったものをベースに、今後はその 3,000 万円というものを目標として考えていきたいと思っております。300 万円以下に関しては、アンケートの件は後ほど説明させて頂くとして、支援策といったところだと、機械・施設の補助というところでは、現在も農家さんの規模に関わらず活用して頂けるようにはなっているので、そういったものをしっかりと継続していくということと、経営のセーフティーネット、いわゆる下支えになる部分をしっかりとやっていきたいと思っております。

### 【椋澤委員】

2 点申し上げたいのは、1 点目の指標の売上ということですがけれども、若い人が千葉市で農業をやったら大体これ位になると見える化するということが呼び込んでいく上では大事な指標になると思えます。あともう 1 点ですがけれども、どちらかという農地を集約化していくことは避けられない流れであるというのはわかりますが、企業体を参入させれば解決するんだということにならないように、とにかく今頑張っている農家さんの声を聞いて頂いて、少しでもその方々が子供さんやお孫さんに継承していけるような取り組みを是非計画含めて継続して取り組んで頂ければと思っております。

### 【伊藤委員】

近くて遠いというのが千葉市の農業だなと感じております。千葉市の農業をどのように進めていくのかというのは大事な視点であると考えております。今回は基本計画の総括ということでお話を頂きま

したが、その中で何点か確認させて頂きたいと思います。これだけたくさん基本計画の中で、これだけたくさん目標を設定し、取り組まれているのはすごく評価できるなと思っております。この農業基本計画の中の目標設定というのは、これまでの農業従事者の方の意見を受け止めながら進めてきたものと受け止めております。実際には一次・二次・三次とそれぞれ目標が定められ、進められていますけれども、全て目標達成に至っていないというのが現実なんだなとわかりました。しかし、資料6ページ目の柱2を見てみると第3次では、目標達成率が上がっているみたいなんですけれども、そもそも目標値の設定というのが現状より高かったのかなと。そこら辺の設定の考え方はどのように設定されて今回の結果に至ったのか、先ほどから出ている農業所得という点においては50%ということで大変低い数字になっているんですけれども、皆さまから見た視点では何とか達成できた数字なのかどうかということをご説明いただければと思います。そして2点目ですけれども、今後の方向性の中にもあるんですけれども、販売力の強化による底上げというのが大事になってくるんじゃないかとありますけれども、私が美浜区に住んでいて感じるのは近くに地方卸売市場があるんですけれども、市場があるにも関わらず、その近くに住んでいる我々が恩恵を受けているなという実感はあまりないんですね。しかも美浜の小規模店の方に、市場でお買い物されるんですかと伺うと買わない、行かないというんですね。ではどこで買っているのですか、というところ近くの販売店で買うと。昔はメトロという外資系のスーパーがあったのでその市場で買い物されると。遠くまで買い出しに行くのが大変なので、近くで買い物されるんですと。せっかく千葉市でこれだけ市場を持っていて、農家の皆さんがたくさんいらっしゃるのに、もっともっと売り手市場として売りにきてもらえれば、小規模店の皆さんも材料を買うのに助かるんじゃないかなと思うんですね。そういったことを基本計画の中でもっと前に出して頂いて、六区それぞれのカラーがあるわけですから、そういったところにも千葉市の農業、生産物というのをしっかりと知って頂くということも大事なんじゃないかなと思ってはおりますがいかがでしょうか。

#### 【渡部課長】

まず、販売力の強化の方からご説明をさせていただきます。現状で言うと、農産物の直売所は比較的あります。民間事業者でも直売所を営んでいるところがありまして、その支店が市内には幾つかありま

す。そうしたことを踏まえまして、次期基本計画では地産地消といったものを十分考慮しながら、作るどころだけではなく、出口戦略のところにも触れて計画を立てていきたいと考えております。

年間農業所得の数値は、県が出している農業経営基盤強化促進に関する基本方針、いわゆる認定農業者に関する方針に基づき作成した、千葉市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想において、効率的かつ安定的な農業経営体の育成目標として年間農業所得570万円以上と定められており、そちらをベースに作成しております。

年間農業所得につきましては、生産農業所得を販売農家で割った金額で把握することとしておりましたが、先ほど申し上げたとおり、販売農家数の把握が出来なくなったため、こういった評価になってしまいました。

#### 【伊藤委員】

ありがとうございます。目標値については所得のことだけではなく、全体としてどうだったのかという評価と、認定農業者の生産量とか平均所得の部分が50%とかになっていますけれども、この数字は限界だったんですか、という2つの視点で聞いているんですけれども。片方の答弁しかなかったかなと思います、追加があれば是非教えて頂きたいと思います。

所感ですけれども、美浜区はショッピングセンターがたくさんありますが、衰退してしまっていて、名ばかりのものになってしまっているんですね。ワークショップとかそういったものが中心になってきて、物を買う場所がなくなってきています。その場所をもっと、野菜が買えたり、魚が買えたり売ってくれる方がいれば、高齢者の方々にはとても身近なところなので、買い物しやすくなるのですが、そういったところに、販売網を作って頂くと物凄く助かるなと地域住民の方は思っております。農業を発展させていく、産業化させていくというのも大事なのですが、身近な市民の皆さんで買い物難民になっている方もいらっしゃるので、そういった皆さんの視点で、また千葉市の地産地消という視点でも施策を進めて頂ければありがたいなと思っております。

#### 【表谷部長】

農業従事者数が、全体でいうと7割程度の達成しかになっていないということについては、元々認定農業者も含めて農業従事者や経営

者数の減り方が、我々が前基本計画の目標を設定した際の想定と比較して、相当早かったというのが現状かと思えます。売り場に関しても、伊藤委員の仰るとおり市街地での消費を増やしていかないと、地産地消も進まないというのがありますので、我々としては次期基本計画の販売のところに位置付けていくことを考えております。最近の事例で言えば、「やさいバス」という地域の農産物を1台の流通で共同配送する仕組みを新たに民間事業者と連携して取り入れたりしながら、美浜区だったり稲毛区だったりの例えばコンビニなどに産直のコーナーを作って頂くとか、そういった形で消費を増やしていくという方法もありますし、千葉市では、何と云っても千葉市内にはJA千葉みらい様が「しょいか〜ご」というかなり大きな直売所を持たれていますし、消費というのはかなり積極的に行われていますので、今後もJA様と連携しながら、しっかりと都市部の方に地産地消のものを届けていくという施策は打ち込んでいきたいと思っております。

#### 【小島委員】

市場は売るところではなくて、生産者の皆さんが持ち寄った農産物を仲卸さんが買っていくところでございまして、一般の消費者の方が買いに行かないというのは普通かと思えます。周りでは小売りで売っているところもございますが、そこは肉しか売っていないだとか野菜だけしか売っていないとか少し意味合いが違うのかなと思っております。

JA千葉みらいでは、「しょいか〜ご」が小倉台に1箇所、実籾に1箇所ありまして、そのほかにイオンタウンで地元の野菜のみ取り扱っている「千葉みらいコーナー」というのがございます。そういうところでも、千葉市で生産された野菜を売る場所は自分たちで確保しながら千葉市民に買って頂くということを展開しております。千葉市の「しょいか〜ご」に出品していらっしゃる農家さん約1,000人のうち、千葉市で生産されている方は700人ほどいらっしゃいます。このデータでいきますと、2020年658人と書いてありますが、これが合っているかどうかわかりませんが、「しょいか〜ご」の生産者だけでも700人、加工用を作っている方もいらっしゃいます。最近では、定年帰農者の方が新たに参加して頂くことも増えております。定年帰農者というのは、元々実家が農家という方もいらっしゃいますので、そういった方々、また新規の就農者に、大体販売はどこにするのと聞くと「しょいか〜ご」とのご回答を頂きますの



で、地元の人が作ったものを地元で消費してもらおうという方向で進めて頂きたいと思います。

### 【阿部委員】

私からは意見と質問を述べさせていただきます。

農業の所得のところですが、今後、農業の新規参入者を増やしていくという話になりますと、農業の所得を増やしていくとかの議論になりますので、データをきちんと把握するべきであると思います。国が統計上取得していないとのことですので、今後千葉市独自でやるのかどうかを考えて頂きたいと思います。

次に、資料 12 ページのデータの活用についてでございます。これは、クロス集計をすれば、販売規模が大きいところは活用していて、販売規模が小さいところは活用していないといったデータがおそらく出てきて、それについてどうするかという分析を行い、今後の基本計画を検討していかなければならないと考えておりますので、指摘させていただきます。

そして、質問です。10 ページで、農業をやっている方々で特に 300 万円以下の規模が減少しているということですが、この減少した先はそのまま農地が使われなくなったのか、それとも農地が集約されていったのかをご存じでしたら、教えてください。14 ページのデータを見ますと、平成 17 年から平成 27 年の 10 年間で 2,100 ヘクタールから 1,400 ヘクタールに減少していますので、集約とかその辺のことをどう考えているのかを教えてくださいというのが 1 点と、それから、この計画を策定する際に農地が減っていくというのは分かっていますので、千葉市としてどのような施策を打って、そしてどのような評価をしているかを教えてください。

### 【表谷部長】

ご質問にお答えします。300 万円規模の層の減少が大きいというところと農地の関係というところですが、クロス集計については、農林業センサスの生データは農林水産省が持っており、我々が簡単にできるものではないというところでございます。

ただ、11 ページを見ますと、経営耕地の面積の状況については、1 経営体当たりの経営耕地面積は、平成 22 年の 1.32 ヘクタールから、令和 2 年には 1.84 ヘクタールまで増加しています。1 経営体当たりの経営耕地面積は増えている状況であり、廃業された方で 300 万円以下の方の経営耕地面積はそれほど大きくないと考えられますので、農地は集約されているということかと思えます。

一方で、千葉市は都市部の農地もございますので、転用等、農地以外の活用に流れていることもあると思います。そういったことを踏まえますと、経営耕地面積全体としては減っているということが考えられると思います。

**【阿部委員】**

市で農用関係は減るということは最初からわかっていたから、それに対して施策をどう打ってきたのかという評価ですね。それを教えて頂ければと思います。

**【表谷部長】**

後ほどまた改めて数字をお見せしたいと思いますが、年齢のところで言うと、高齢の方が減っていく状況というのは中々歯止めがきかないところでありまして、若い人に入って頂かないと中々続いていかないところがありますので、それを後ほど御説明させていただきます。

**【石橋会長】**

ほかに、よろしいでしょうか。

それでは、事務局におかれては、各委員のご意見等に留意して、次期農業基本計画の策定を進めてください。

**議題5 次期基本計画について**

事務局（渡部課長）が次期農業基本計画について説明を行った。続いて、以下の質疑応答があった。

**【宇留間委員】**

販売規模が3,000万円、1億円、3億円と記載がありますが、この方々は何を作っている方々ですか。

**【渡部課長】**

実は、このセンサスは具体的にどなたがこの売上実績であるかは公表されていないため、私どものほうでも把握できない状況です。

**【宇留間委員】**

3,000万円以下の人は分かりますか。ただ金額を示されても、どのような作物を作っているか、またどのような販路を持っているかといった具体的なイメージが分かりませんので。

### 【石橋会長】

では、所得に関しての種類別とそのほかで、分かればお答え願います。

### 【表谷部長】

紐づけは先ほどのとおり分かりかねるのですが、営農指導する中で考えますと、おそらく300万円以下の小規模の方々はお米を作られている方が多いのかなと。あとは露地野菜などがそれに該当すると考えられます。それなりに売上規模が大きいということになると、資材の投入が大きいということで、施設園芸でも特にトマトやイチゴなどが上にきているのではないかと思います。これは売上なので、所得というところでいくと法人と個人の別もありますけれども、売上で考えますと、我々が現場に入った中ではこのような感覚でございます。

### 【宇留間委員】

「農業持続性を高め、100年先の未来に」との記載がありますが、100年先というかなり先の未来ではなく、短くしたほうが良いのではないかと。農業所得を上げるなどの記載は確かに格好がいいが。魅力のあるような政策をしないと。机の上の数字だけでは駄目、実際やる人は大変。林業に関して1つ聞きますが、育てたその木を千葉市で買い取るのか、どうするのか。千葉市が市場に売るとか。秋田には秋田杉がある。千葉には山武杉がある。千葉市が農業と共に林業を推し進めてどうするのか、教えてください。

### 【表谷部長】

林業経営体のところで言いますと、センサスで林業関連のデータが出ているのですが、実は千葉市では木材を販売している経営体は存在しておりません。林業に関して言うと、我々は、施策展開の方向性3というところに森林という言葉がございますが、現状で言いますと、台風で森林が影響を受けて、インフラに負担を与えたことがあったことや、山を持っている地権者の方がその整理をどうするのかとお困りの方がたくさんいらっしゃるということを踏まえて、市民生活への影響がないように、まず森林整備をするところを森林組合の皆さんと一緒にしっかりと行っていかないといけないかなと考えております。経営面でいくと、千葉市の林業の経営は中々難し

いということがありまして、森林整備のほうにシフトをしながら、しっかりと取り組んでいきたいと思えます。

### 【斎藤委員】

計画についてはこれまでも、長期の計画を千葉市さんでもされてきて、農業というのは幅が広いので内容がてんこ盛りになっていますが、では、果たして生産者にとって、何か市がやってくれたと感じるものは、正直言ってあまりないと思えます。

市の予算についても、福祉とか医療が増えてくるというのは高齢化で分かるのですが、農業にこれだけ色々な計画をしたとしても、お金がなかったらできないんですよ。これを全部真剣にやろうと思ったら、農業だってお金がかかりますよ。今までも食糧危機だとか何度もありましたが、予算はそれに伴って増えてきたんですか。我々からしたら、計画と予算の裏付けが伴っていないと。だから、みんな中途半端になってきてしまうんです。今の農業にはお金がかかるんですよ。お金がないと農業ってできないんです。機械化を色々としていくにも日本の機械は非常に高い。お金がないとできないんですよ。新規就農したいといってもお金がたかさんかかるんですよ。やる気があったってできないんです。では誰がそれを支援するのかと。特に私は酪農ですけども、酪農では1つの機械が1,000万円以上で、乳牛だって1頭買うには70~80万円するわけですから。やりたい人がいても、中々できないですよ。では、自分の代わりにどなたかやってくれと言っても、それだけ稼げるという裏付けがないんですから。だから、そういう現実もあるということです。

それと、もう1つ統計的なもので、販売金額が全面に出てきますが、我々としたら実際の収益なんですよ。幾ら手元に残っているのか。手元にお金が残らないと意味がないんです。場合によっては規模を拡大していったら、借金が増える場合もある。だから、見方をそういったところまで掘り下げていかないと、難しいのではないかなと思えます。

それと、私たちにも後継者がいるんですよ。ただ、子供たちが継がない。それはなぜかという、親子で一緒に農業を引き継いでいけるなら設備投資した分が無駄にならないし、技術も継承していけて続くんですが、それだけの給料が払えないんです。だから、子供が働くのであれば、実質、親が無収入で働くということになるんです。そういう現実があるわけです。

今、ウクライナとロシアのことが話題に出ていますけれども、それ以外にも、自然環境の変化、想定しなかった円安があります。今は1ドル140円だけれども、日本の場合は国の借金が多いから、金利が上げられない。そうすると、ますます円安が進んで、150円、160円まで行くだろうと。

酪農、畜産は飼料のほとんどを輸入している。統計データでもありますが、酪農家の9割が赤字、6割が廃業を考えていると。それだけ、飼料価格が高騰してしまっていて、経営ができないというのが現状なんです。だから、簡単に計画を立てられても、そういった状況というのは個人の努力では解決できるものではないんです。あとは政治とか行政の力を借りないと、残っていきたくても残っていけないんです。とにかく、できる対策をいち早く打って頂きたい。そういう気持ちでございます。

#### 【表谷部長】

斎藤委員の仰るとおりで、予算の中で農政部分が少ないということは、我々も認識しております。市役所内でも予算のやり繰りは全体のことなので、福祉や高齢化対策の方が優先されがちではあるのですが、千葉市においても令和2年の農業産出額については、千葉県自体は全体の4位、千葉市は県の中でも15位という状況もありますので、しっかりと予算を確保していくという努力を我々としても継続していきたいと思えます。

直近のウクライナ等の情勢もありますので、現在ヒアリング等をさせて頂いておりますが、肥料に関しては先日対策等を打たせて頂きましたが、飼料に関しても今後の状況を注視しつつ、県の対策等の状況も注視しながら、我々のほうでも検討していきたいと思えますので、よろしく願いいたします。

飼料に関しては、外からえさが入ってこないといったこともございますので、市内の空いている水田等で活用ができていない、土地改良区でも高齢化等により活用できていないところもございますので、そういったところで飼料を作るようなこと等も考えていくとともに、現場の意見も聞きながら飼料の自給についても考えていきたいと思えます。

#### 【秋山委員】

3つほど伺いたいと思えます。

100年先という目標を掲げて頂いているのは非常に良いことだと思いますが、やはり喫緊の課題というところで、近いところに目を向けて、予算を立てることが必要ではないかというところがございます。基本計画は、5年という計画期間ですけれども、18ページのところで10年後の目標を定めています。ここは10年後の目標ではなく、5年後の目標ではないのか、5年後の目標は決めていくのかということをお伺いしたい。

14ページのところで、今後の千葉市農業の振興施策として重要なものについて、1番が耕作放棄地の対策で、実に半数以上の64%の方が回答していらっしゃいます。今回の本計画における基本目標、計画の体系というところで、私自身も30代で、農業の大切さというところを感じているんですけれども、そういったところに焦点をあてて頂いているというのはありがたいなと思いつつも、アンケート結果を踏まえて、耕作放棄地の対策というのがすごく重要になってくるのではないかと、ここら辺をどのように対策をしていくのかということが1つ。

そして、最後に、今申し上げた市内の20～40代の方に向けて新規就農者として目標に掲げて頂いているということですが、人口的にもやはり少子高齢化等で減ってきている中で、新規就農者を確保していくというのは難しいのかなと思うんですが、見える化ですとか、ブランディング等含めて工夫していく面、難しいからこそ工夫していくんだよといった面を教えてもらえればと思います。

#### 【表谷部長】

まず、基本目標のところ、5年計画のところをなぜ10年後にしているのかということですが、5年目での計画の見直しというところで、10年後の数値目標に向けて、一旦見直しをしなければならぬと考えているところです。10年間ずっと同じやり方でやっていると途中で修正が効かないということで、計画は5年で区切って、目標は10年後を見据えてということでございます。

耕作放棄地については、耕作放棄地を解消するための予算や集積の関連では農地銀行事業の中で支援を行っております。一方で、これは国の施策になりますけれども、令和5年4月1日付けで、人・農地プランという、農地の担い手と農地を紐づけて地図上に落とし込んでプランニングをすることが法定化され、各市町村としてもやらなければならないことになっております。そうすると必然的に、どの農地を誰がやっていくのかというのを決めていくことになりますので、その際に、耕作放棄地を俯瞰的に見て、どのように

解消していくのかということを考えていくことになるのかなと思います。その点、千葉市は市街地ということでありますので、農業経営には向かない農地も一部ございますので、そういった場所では農地以外の方法での活用を柔軟に考えるというのも1つの方法で、都心部である千葉市ならではの考え方と思います。

また、若い方が農業に入って頂く施策として今年度からスタートしました新規就農アドバンス研修では、農政センターの空きハウスを利用して、トマトとイチゴの研修を行っております。現在は研修生として、20代前半の方が1人、40代の方が1人おります。40代の方は元々営業職をしておりましたが、それを辞めて農業をやりたいということで参加されています。研修では空きハウスを使った疑似経営になりまして、1年間自分のハウスを使って生産活動を行い、販売面もシミュレーションをして、どのくらいの売上になるのかを出す予定で、実践的な研修を行っております。経営であったり、6次化だったりとかそういうところの教育を年間何十講座とこなせるような研修を始めております。農家さんからは実際に農家さんの中に入った、より実践的な研修を行った方が良いのではないかというご意見を頂いておりますので、そういったことを組み合わせ、より実践的な内容に組み替えていきたいと思います。アドバンス研修等を踏まえて経営的な力がつくような研修を本市としては進めたいと思います。

また、ブランディングというところでは、食のブランド「千」があります。まだ始まったばかりで認知度はあまり高くないのですが、この「千」の認定者の方の中にも新規就農をされて5年未満の方で、例えば落花生を作られている方も認定されていますけれども、やはり認定をされてから市内での注文数や売上が上がっているというところでした。新規就農で入ってくるころから売るところまでを体系立てて考えていきたいと思っております。

### 【秋山委員】

目標のことについて承知しました。また、耕作放棄地についても、表記しなくても法定化されて、これから進めていく環境が整っているということも確認しました。20～40代以下の新規農業者の方に対して、具体的なことが進められている中で、農産物のブランディングというお話がありましたが、そのブランディングと併せて、働く方のブランディングも新規就農者を募る上では大切なのかなということ意見をさせて頂きましたが、引き続きやって頂ければと思います。また、先ほど斎藤委員も仰っていましたが、お金のか

かるところは支援して頂いて、持続可能な農業を続けて頂けたらと思います。

### 【伊藤委員】

先ほどは小島委員からもお答えを頂き、ありがとうございました。お話しを頂きましたことは、私も承知しておりますけれども、地域の方の声でもあるということをご理解頂ければと思います。

先ほど斎藤委員からもお話がありましたが、非常に大事な話だなということで、ウクライナ情勢に関するものというのは、しっかりと国のほうにも対応を聞きながら補正を作っていくと、非常に難しい課題であるなど感じておりますが、私も議員として国のほうにこういった課題があることを認識して頂きながら、国のほうにもしっかりと施策を進めて頂けるように要望していきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

また基本計画につきましても、中々実感が湧かないものが多いというご指摘がありましたけれども、それをどう実行性のあるものに変えていくのかということが大事になりますので、しっかりと働く方の声に耳を傾けながら基本計画に反映して頂ければと思います。

そこで、これまで、我々の会派としても農政センターを含めて色々と質問させて頂きましたけれども、ご答弁頂いた中で、競争相手のある担い手の育成をしっかりと作っていくながら、若い世代を育てていくということも必要で、就農支援のプログラムを開始しているということも我々も存じ上げております。これまでも我々が言ってきたのは、農政センターの農業技師を増やしていくながら地域農業の中に入って行き、取り組みを展開していくことが大事だと申しあげてきましたけれども、その取り組みは現状どのようになっているのかをお聞かせいただきたいのが1点。

これもまた専門家の方の意見を伺いたいところですが、林業というのが現在衰退してきている中で、サステイナブルという言葉が出てきて、今後どのように持続可能な社会をつくっていくのかということです。コンクリートはCO2を排出していくけれども、木造の住宅はCO2を吸収していくので、木造の住宅を推進していくことが逆にいえば、環境に対しては非常に有効ではないかと。人口が減少していく中で、こういった担い手を育成していくことが大事だと思いますし、直近で言いますと、材木の価格の低迷とかいった課題もありますけれども、将来を見据えた時に、千葉市の林業をどのようにやっていくのかと。災害が発生した時に、山の管理ができていないと被害が大きくなるといった経験も過去にはございますので、千葉



市における林業というものをどういう形で位置付けて進めていこうかとお考えなのか。そういった具体的な部分を教えて頂ければと思います。

#### 【表谷部長】

まず、農業技師を増やしていく、そして地域にしっかりと入って行くというところですが、農業技師の新規採用が再開いたしました。20年弱の間採用が止まっていたのですが、新たに2人の新規採用が入りました。また、今年も試験をさせて頂いて、1人の合格が出ている状況でございます。

やはり現場に入っていくところだと、特に令和元年の台風の際に、現場に来てくれなかったという話を聞きまして、そこは大きく反省しなければいけないと思いました。それからは定期的に農業技師も現場に入るようになっていきますし、台風前の巡回ですとか、あとはヒアリングで意見を伺いながら、ある程度まとまった数の農業者さんのところに足を運ぶというのは、習慣付けて実施していこうと考えております。

あともう1点、農政センターのリニューアルについても、農業者さんにご意見をお伺いするというのを農政センターで行う機会を増やしております。

千葉市の林業についてですが、現在、素材生産を行っている経営体はありませんが、これから新たに林材を作っていくというのは難しいと思っております。一方で、森林の整備というところは進めないとはいけませんし、森林が持つ潤いや多面的機能の発揮については、森林ボランティアの方だったり、森林組合の方だったり、そういった方々のような担い手の育成をやっていかなければならないと考えております。実際、チェーンソーの活用研修等も行っておりまして、森林自体を支えていく方々をしっかりと育成をしていきたいと考えております。

あと、サステイナブルという観点から、木材を使った住宅の推進ということもありますが、そちらに関しては森林環境譲与税もありまして、森林環境譲与税の活用と致しましては、例えば公共施設への活用の視点、新庁舎の中でも県産材を活用する、そういったところも考えながら、サステイナブルという観点に合致する林材の活用ということも考えていきたいと思っております。

#### 【阿部委員】

1点質問させていただきます。

資料の 14 ページに書いてあります、農家向けの調査では耕作放棄地対策ですとか、それから農地の売買とかのニーズが多いと見えます。質問というか意見になります、農業に新規参入する方に対する施策が多いように感じますが、一方で事業承継ということも考えていかなければならなくて、その辺りはあまり見えてこないように感じます。19 ページに後継者対策について少し書いていますけれども、あまり見えてこないですね。資料 3-2 基本計画の素案の 34 ページの図 26 に、担い手確保と支援ということでデータをとっており、農家さんのニーズがあるのは、子弟が農業を継ぎやすくする支援というのが 1 番多いようなんですね、改めて見ると。

先ほど斎藤委員が仰っていたのは、その辺りの支援が実感としてないというのが現場の声なのではないかと私は思いますので、次期農業基本計画を考える上では、事業承継についてどう考えていくのか。サポートとしても、事業承継という既存の箱とかがあって、そういうメンテナンスだとかそういったところにかかってくるのかなど。あとは新しくするだとか。全く新しくする場合は銀行の融資とかそういったところも関わってくると思います。その場合は施策として変わってくると思いますので、その辺をどう考えているのか、ご意見を伺いたいなと思います。

#### 【表谷部長】

委員の仰るとおり、我々の施策は新規就農とか新規参入が表に見えてしまうので、そればかりになっていないかのご意見を頂きます。後継者対策については、ずっとご要望を頂いているところで、まずは、例えば機械・施設の整備ですと、後継者の方でも利用できるようになっておりますので、そういったところでは区別をしておりません。さらに、機械・施設の補助については、拡充することを検討しております。こちらは、まず基本計画に位置付けて、次の 11 月の審議会でご審議頂けたらと思います。

また、施策があっても、使えるとは知らなかったということがありますので、そこは我々の周知不足だと思いますので、その際は、後継者も含めた支援ということが分かるようしっかりと明記していきたいと思います。

就農後の資金確保の関係ですと、経営開始資金という国の支援があります。これについても後継者の方も使えますし、更に言うと、千葉市農業継承者経営発展支援事業というものがありまして、例えば経営を継承して法人化するとか、継承して新たに G A P 認証等を取得するとか、そのような経営に関する相談をコンサルタントにしたいといった経営関連のソフト支援というものもございますので、

経営継承に関する支援へのご要望についても、しっかりと応えていけるように基本計画の中でも位置付けていきたいと思っております。

### 【小島委員】

次期基本計画については、積極的な計画を組んで頂いたという印象であります。ハードルを上げて大丈夫かなということもございませぬけれども、具体的な方策を丁寧に作っていくと。これは非常に大変なのかなと思われました。

続いて現状ですけれども、肥料や生産資材は非常に上がっております。肥料については1.5倍まで上がっております。その理由としましては、ウクライナ情勢ですとか中国が肥料を外国に出さないなどがございませぬが、それによって元々安かった肥料価格が高騰し、そしてこれが継続されてしまうのではないかと非常に懸念しております。そうなってきますと、農家は食べていけない、食べていけない農家はやらないという悪循環になってしまいます。こういうところの支援ということで、緊急支援を千葉市さんにも要望したところ、市長をはじめとして局長、部長とたくさんの方のお力添えを頂いたということで、この場を借りて御礼申し上げたいと思っております。

私からは3点ほど伺いたいと思っております。

まず、食糧安保についてでございます。これだけ小麦の値段が上がり、小麦が上がれば、うどんや蕎麦等、全て値段が高騰しますから、これを千葉市としてもある程度、麦・大豆・えさ。えさもですね、斎藤委員からもありましたとおり、物凄く値段が上がっております。県としても対策を用意しているようですが、千葉市でもこういった対策をとれないものかと思っております。これについての方策が何かありましたら、次期の計画の中に取り入れてもらえないかなと。

それから国の政策としても、飼料用米がかなり増産されており、米価は需給バランスによって値段が決まってくるんですが、去年は非常に安くて生産費を賄えないくらいの値段の設定で、これではやっていけません。今、機械を買おうと、コンバインは1,000万円位します。それを償却していかないと農家を続けていけません。そのため、米粉の消費拡大をお願いしております。今、千葉市さんを含む五つの市にお願いをしておりますが、中々良い対策が出てこない。特に米粉についても、ぜひ考えて頂きたい。これが1点。

2点目に、露地野菜の生産者が、非常に多く辞めていっております。私も農家で、一町二反のうち実際は三反分しか作っていないんですけれども、我が家はトラクターがあって、私が乗れるからいいのですが、高齢化したところで親にもトラクターがない場合には、

管理できないので荒らしたほうが早いとなります。私は花見川区に住んでいますけれども、周りを見ると草だらけです。露地野菜の作物を増やしていかないといけないと思います。農業の担い手が減ってくる中で露地野菜の生産者を育てていくことも大きなテーマではないかと。今後の基本計画の中に含めて頂きたいと思います。

3点目に、今日の話ですが、更科町で田んぼの中に猪が出没したとのことです。更科で猪がと思いますけれども、土気にはとっくに入っています。田んぼの中に猪が入ると物凄く臭いんですね。それを精米しても食べられないという状況です。これも基本計画の中にそれを盛り込んで頂けたらというのが、もう1点。

また、高梨子先生にもおいで頂いておりますので、専門家として、千葉市の農政に対する意見も伺えたらと思います。

### 【表谷部長】

まず、自給率ですけれども、我が国の食料自給率は4割を下回っているという状況でございます。海外からの輸入に依存している中で、安定的な食糧供給の構築が求められますが、外交の側面もありますので、国の果たす役割が非常に大きいと認識しております。

一方で、千葉市内で言うと、例えば台風などの災害で一時的な供給量の不足ですとか、また、働き方改革の関連法の施行に伴いまして、トラックドライバーが長時間働けなくなることによる遠距離からの供給に際してのトラック不足が懸念されます。そのため、余計に域内での食糧の確保が大事であることは認識しております。

市内の生産の状況を上げるというところで言いますと、自給率ということではやはり作る人がいないといけないので、今回の目標にも掲げていたとおり、市内生産者を確保していくというのが大事になりまして、そういった意味で市町村単位でも可能ではないかと思うのは、生産量の増加と地産地消を含めた需要量の増加というところですね。これをしっかりと次の基本計画に入れていくとともに、お米で言うと自給率はカロリーで計算するところもありますから、米の関係については俯瞰的に見ていく必要がありますし、米粉で言いますと、食のブランド「千」の取組みで米粉の活用というものを検討しておりますし、ちょうどJA千葉みらいさんにサンプルを提供して頂いて活用の方法を考えていますけれども、市内のブランディングとともに米粉も検討できればなと思っております。

次に、露地野菜についてですけれども、まず、千葉市全体として、1箇所で大い農地は確保しづらい状況でして、若い方に入って頂くには露地よりも施設のほうが所得としては上げていきやすいと思っております、一方で露地野菜を大規模にやられている方もい

らっしゃる状況もあって、先ほどどんどん辞めていかれているというお話もありましたけれども、やはり生産体制として技術的なところで、中々高齢者は使えないというお話もありましたが、スマート農業の技術の中には、かなり省力化に資するものや高齢者でも使いやすいものもつくられてきています。一方で、現場に急速に普及することが難しい点は我々も認識しておりますので、そこは農政センターで高齢者でも使えることを提示して、一緒に考えていけるような体制をつくりたいと思っております、露地野菜についても若い人でもやってみたいということも出てくるかと思っておりますので、まず技術面のところですね。

あとは、先ほどウクライナのこともありましたが、コストを下げていかないと厳しいと。特に露地野菜の場合は、土壌診断です。農政センターでは無料で提供しております。コスト削減に資するということもありますので、肥料高騰等に対応することに鑑みても土壌診断等を活用しながら、フルにサポートしていきたいと考えております。

次に、有害鳥獣の問題についても、少しずつ出没する範囲が広がっているというのは我々も認識しております。昨年度の被害は1,300万円程度となっております、ここ数年は横ばいではありますが、猪だけでなく、例えばハクビシンだとかアライグマのような中型獣の被害も最近増えてきております。この部分はこれからもずっと続く課題ではありますので、しっかりと鳥獣対策についても取り組んでいきたいと思っております。

### 【高梨子委員】

これまでのことをきちんと数字で評価しつつ、非常に積極的な計画を立てられていると思います。気になりましたのが、売上規模層10%というのは、日本の農業の傾向としてもこちらの方向に向かっておりますので、そこまでこ入れしなくても実現できる可能性はあるのかなとは思いますが、40代以下の経営者を100人というのはすごく難しい目標ではないかと思っていて、100人の内訳について、後継者がどれだけで、新規参入者はどれくらいか。それぞれ違った施策を打たなければならないですね。それをもう少し具体的に教えて頂きたいというのが1点。

2点目に、施策全体が若くてやる気のある農家さん向けのものが多いですけれども、現状小規模で高齢化されている農家さんがたくさんいらっしゃるわけですね。やる気があってどんどん稼ぎたい農家さんを増やしていく、逆に言えば退出農家を促していくこともやは

り必要になってくる可能性もありえますよね。そこについて千葉市としてどう考えていくのか。

3点目に、産地の見通しです。先進的な農業を行われている農家さんを集めて、先進農業地帯としてやっていくのか。それとも、千葉市の消費に資するような地産地消の農業。または、ブランド化して、高品質な農産物を生産して、首都圏の高所得者や海外に輸出するなど、どの市場を目指しているのか。農家さんは多様なので、一概に千葉市としてこうしたいというのは難しいかもしれませんが、もしビジョンがあれば教えてください。

#### 【表谷部長】

まず、40代以下の経営者100人の想定というところでは、今2020年の状況として50人。これをそのままにしていくと20人に減っていく可能性があるのですが、これをまず倍にすると考え方です。市のアドバンス研修を含めた新規就農研修は年間5人程度の計画を立てていますので、今年からは8名になりますけれども、それで40名くらいは確保できるのかなと。更に、新規就農者の施策自体も見直しをしていきますので、もう少し拡充できたらなと思います。

後継者については、具体的な数字というものは中々お答えしづらい部分がありますが、後継者支援の事業や機械・施設の補助等も含めて、新規就農者と後継者を併せて、目標を達成していきたいと思っています。

退出農家を促すかどうかというのは、非常に難しいと思います。現状、明示的にお答えできるだけの材料は持ち合わせていないのですが、そこについては継承者対策に含めていくという考え方もありますし、法人に人も農地も集約していくという考え方もあります。法人への集約についてはしっかりと支援していきたいと思っています。法人の施策に関しても、外から呼んでくると同時に市内法人の底上げをしていくということで、新しい基本計画の中にも施策として入れていきたいと思っています。

産地についての方向性ですけれども、市内にまとまった農地が中々なく、みんなでまとまってやっていかないといけないので。3,000万円という数字を若い方に達成してもらおうということになると、施設園芸がフラッグシップになるかなと思っておりまして、産地としては施設園芸を進めていければと思っています。

資材の高騰というお話もありますが、イニシャルコストのカバーについては、先ほどの後継者向けの対策と同時に新規就農者向けにも枠は用意したいと思っていますし、国のほうでもイニシャルコストをカバーできる施策もございますので、それと併せてしっかりとカバ

一していきたいと思います。そういった面でも施設園芸を産地化していきたいと思います。

今回の基本計画の第3章にみどりの食料システム戦略というものがありますけれども、環境の持続性と生産性を両立するという方向性が出ておりまして、これに関する事業も、令和5年度の予算としてかなり出てきております。この中に施設園芸向けに活用できるものもありますので、産地としては施設園芸をサポートしつつ、規模拡大することで集約していくということもありなのかなと思います。

#### 【小島委員】

回答は結構でございますが、飼料用のトウモロコシ等を増やす、また肥料を少なくしなくてはならないですね。一つは、みどりの食料システム戦略にもありましたが、耕畜連携のようなたい肥を活用する政策。小さな農家は大体露地野菜の農家なので、露地野菜で食べられる農家の育成を進めていただきたいと思います。

また、施設は助成金が出しやすいと思いますが、それだけでなく露地野菜の農家にも、そういった助成金を出していただき、規模拡大農家を増やして頂けたらなと思います。

それと、農薬を少なくする緑肥や肥料として使える緑肥もあります。そういった対策もして頂けたらなと思います。

#### 【榎澤委員】

先ほど、みどりの食料システム戦略は今まで千葉市になかった考え方とのことでした。有機農産物の学校給食への展開について、できるだけ、安心して安全なものを子供たちに、といった動きについては、今後どう取り組んでいくのか教えていただきたい。

また、市民農園、観光農園のニーズが市民に高く、定年したら農業をやってみたいなという方に対して、耕作放棄地等もありますから、そういった場所を市民の皆さんに提供していくようなことを検討して頂けないのかなと思います。

更に、香取のザ・ファームのような、千葉市でいえばウシノヒロバが現在賑わっているとのことですが、今グランピングが人気ですから、そういう方々にも泊まりに来て農業に触れて頂くと。そういう機会を増やして、そういう農業に触れた方が野菜作り興味を持って頂くような、もっと行政として機会をつくって頂けないかなと思います。

#### 【表谷部長】

千葉市の有機生産者は19件と僅かでございます。農政センターに農業技師はおりますが、有機栽培の知識がある者がいない状況です。有機栽培の指導力が正直ない状態ですので、現在有機の転換農場をつくっておりました、時間はかかってしまうと思いますが、有機JAS認証を取れば有機の農産物を作っていこうという状況でございます。

学校給食ということ言えば、生産ロットが多くないということがありまして、もう少し段階を踏んでいく必要があるのですが、教育委員会とも献立等の栄養のバランスを取りながら検討していきたいと思っております。

市民農園等農業に触れていく機会ということについてですが、今回の基本計画の中で農業の持つ潤いを与える機能というのをしっかりと施策として組んでいきたいと思っております。市民農園というところだと、花見川区の生産緑地を中心とした農地は狭く、中々経営には難しいこともあり、生産緑地等を市民農園化して市民の方に利用して頂くとどのくらい効果があるのかという実証事業を国家戦略特区推進課が行っております、都市部での農に触れる機会というものを作りたいと思っております。

あとは、グランピングのような話になりますと、観光的側面でグリーンツーリズムの関係にもなりますので、経済部とも連携しながらしっかりと取り組みたいと思っております。

#### 【榎澤委員】

意見・要望になりますが、とにかく新しい担い手を増やしていくという意味では、保育士さんが家賃補助を受けたりすることと同じような考え方で、農業者さんたちがいなければ我々の食料がということを考えれば、それ以上の価値があるんだと思うんです。農家への機械や住居の支援はしっかりと行って頂きたい。

また、斎藤委員の仰っていた飼料についても、千葉市独自で速やかに補正予算を組んで頂きたいと思っております。廃業になってしまっただけではどうにもならないんですね。農家さんが悪いわけではないので。速やかな支援をお願いしたいと思っております。

#### 【実川委員】

リニューアル後の農政センターの役割は農業者にとって非常に大切な場所ですが、市民にとっても非常に大切であり、農業振興のメインとなるものだと思います。基本計画の目標を達成するために農業者への支援も大変大切ですがけれども、一般消費者や一般市民の方に農業に対する理解と関心を持ってもらえればよいなと思っております。



ます。そのためには、農政センターが中心となって実施していったらと思います。

#### 【表谷部長】

農政センターは、試験栽培等の農業者の方向けにということで、ほ場とか農業ハウスがありますが、農業者の健康増進施設ということで多目的ホールやグラウンド、そのほかに森林エリアも有しており、我々としても様々な機能を持っていることを認識しております。現在も、市民向けに農政センターの見学会や小学生向けに収穫体験ということで学童農園等をしていますし、最近ですと次世代農育講座をしています。実は先日も農政センターで行いまして、昆虫食ということで、農政センターで捕まえたバッタ等をその場で食べました。教育の一環として、そういった農業もあるということで、非常に好評を頂いたんですけども、最近はこういった形で、小学生や中学生が農政センターに来る機会もかなり増えました。今後、市民の皆様含めて、農にまつわるすべての方ということで、農政センターの活用についてはしっかりと検討し進めていきたいと思っておりますので、今後も色々のご指導を頂ければと思います。

#### 【石橋会長】

ご意見もそろそろ出尽くしたようでございますので、ただ今頂いたご意見を次の会議までに事務局でよく精査しながらやって頂きたいと思っております。

ほかにご意見がございませうか。ご意見がないようでしたら採決にいききたいと存じます。

委員の皆様方からご意見を頂きましたが、概ね事務局案に沿ったご意見や具体的な施策の検討に向けたご意見などということで資料に記載された内容で基本計画の策定を進めてよろしいでしょうか。

議題5について、反対意見なく了承された。

#### 【石橋会長】

ありがとうございます。事務局におかれましては、各委員のご意見等に留意して次期計画の策定を進めてください。以上を持ちまして、会議を終了とさせていただきます。

石橋会長の閉会宣言により協議会が閉会した。

問い合わせ先  
千葉市経済農政局農政部農政課  
電話043-245-5757